

今、地域で家庭を支える 「家庭教育支援チーム」が求められています

1. 地域の子育て・家庭教育支援は十分か？

- 家庭教育は、全ての教育の出発点です。子育て・家庭教育支援は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者の妊娠期から子育て期、学齢期まで切れ目なく続く親子の育ちを応援しています。ところが、地域では、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が孤立してしまう傾向や、地域の地縁的なつながりの薄さなど、子育て・家庭教育支援において様々な課題も指摘されています。

また、人口減少・高齢化の進行も見込まれる中、このような課題への対応として、住民相互の対話や相互扶助による地域づくりが求められています。

地域全体でより充実した子育て・家庭教育支援を進めていく仕組みづくりの一つとして効果的な、「家庭教育支援チーム」（以下「チーム」という。）の組織づくりを検討してみませんか。

2. 地域の子育て・家庭教育支援の課題とチームへの期待

【例：子育て中の保護者等の悩み】

- ◆引っ越しをしてきて知り合いがいない、誰に声をかけたらよいか分からない、うちの子大丈夫なのかしら？

チームが、行政だけでは解決が困難な保護者等の課題に対して、地域住民等とともに解決していくことが期待されます！

地域住民と専門家などが共に活動することで、これまで解決できなかった子育ての不安や保護者の孤立化など保護者等が持つ潜在的な悩み・不安への対応が可能となります。

【例：行政や地域の子育て・家庭教育支援の課題】

- ◆子育て・家庭教育支援について、行政のどこに相談すればよいか分からない。
- ◆様々な子育て関係団体が共に活動を知り合う機会や一緒に考える場がない。

チームが、行政、地域住民、子育て支援関係団体等をつなぐ役割を果たすことも期待されます！

子育て・家庭教育支援の目的のもと、様々な行政部局や団体をつなげ共に地域の子育てについて考えていくことで、例えば特別な支援が必要な子供などに対し、より柔軟で地域のニーズに合った対応が可能となります。

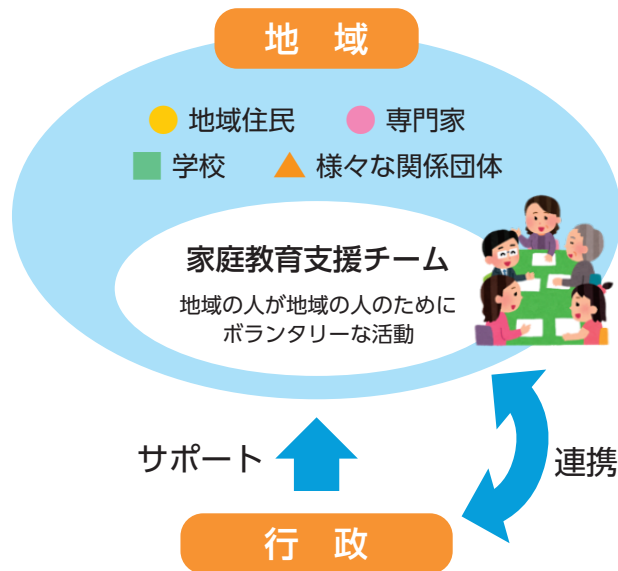
【例：地域住民の課題】

◆時間もあるし、地域のために何かできればいいのに、機会や場所、きっかけがない。

**チームが、地域のことを主体的に考え行動できる機会、
場所となることが期待されます！**

個人としての活動ではなく、チームとして活動することで、地域について共に考え、
支え合いながら活動できるとともに、新たな人材を迎え入れることで、各人の得意分野や
創意工夫を生かし、地域に根差したまちづくりが可能となります。

チームによる地域の課題解決の役割が期待されます！



※まちづくりにいかせるチームによる活動の長期的なインパクト

- チームを通し、地域住民が当事者意識を持ち、主体的な子育て支援活動を行政等と連携して行うことで、例えば長期的に「子育てに優しい」以下のようなまちづくりにもつながると考えられます。

- 地域住民の互恵的なつながりによる、きめ細かく息の長い子育て支援が可能なまちづくり
- 多くの地域住民がまちづくりに関わることで、安全・安心に暮らせるまちづくり
- 地域住民の主体的な活動を通し、生活にやりがいを感じる活気のあるまちづくり

3. 「家庭教育支援チーム」の役割

- 地域の状況によりチームの在り方は異なりますが、大事なことは、地域・家庭の状況や地域の資源の状況等を把握し、地域で何が課題であるか、何を必要としているかを把握することです。その上で、全国の各地域におけるチーム等の様々な実践事例（P.28 参照）も参考にしつつ、チーム員の得意分野や創意工夫を生かした活動を行うことが考えられます。

※文部科学省の家庭教育支援ポータルサイトにおいても、各地域におけるチームの活動を含めた様々な実践事例を掲載しています。
(<http://katei.mext.go.jp/contents4/4-1.html>)



- チームには、主に以下の役割が期待されています。

- 子供が成長するまで保護者と同じ目線で寄り添う役割
- 学校や行政の相談窓口には気軽に相談しにくい点をフォローする役割
- 行政ではどうしても手が回らない部分をフォローする役割
- 家庭と学校、教育委員会、保健福祉関係機関など関係機関をつなぐ役割
- 虐待等の未然防止や不登校等の課題を抱える保護者をサポートする役割など

- なお、チームが持続的に活動をしていく上でも、各チーム員が無理せず、できる時間・できる範囲で活動に取り組むことも大切です。

